（公財）広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報

ひろしまの遺跡

第119号

「鞆の浦」の雁木を調査する！

鞆港湾施設跡（福山市鞆町）

調査前の北雁木

拓本採取作業風景

矢穴と刻印

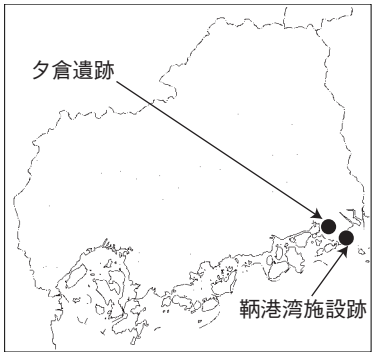
福山市にある鞆の浦は，古くから潮待ちの港として栄えたところです。この鞆の浦を代表する港湾施設のひとつである北雁木について，高潮対策の防潮堤設置と雁木の修復に伴う発掘調査を行っています。

前号（第118号）で紹介した雁木の下で確認された石垣について調査を進めたところ，長さ約20m以上にわたることが確認されました。

この石垣の上には雁木の石材が直接設置されていることから，雁木を支える機能をもっていたと思われます。また，石垣の石材には，石材を割るときに付けられた矢穴（やあな）や写真以外の「△」や「井」などの刻印（こくいん）が確認されました。この特徴は，雁木の北側丘陵にある鞆城跡の石垣のものと共通していることから，石材を再利用していることがわかりました。

（惠谷泰典）

発掘調査速報



① 鞆港湾施設跡（福山市鞆町）

調査期間 平成29年５月15日
～平成30年３月下旬（予定）

北雁木は，江戸時代の絵図・地図や現地に立っていた石柱の銘文などから明治５年を前後する時期に築造されたと考えられることや，複数回にわたる修復を繰り返して現在に至っていること，雁木の下に石垣が存在することなどがわかっています。

10月以降は，北雁木の中央から東半分で調査を進めています。雁木の下で確認された石垣が東に続くことや，中央部のコンクリートの雁木の下には石の雁木が残っていないことなどが確認できました。コンクリートの材質は部分ごとに異なっており，中央部の雁木も複数回の修復を経ていることがわかりました。

また，石の雁木が残っていた東端部についても，記録を取りながら発掘を進めるとともに，ひとつひとつの雁木の石材の形や加工方法などについても観察と記録を行っています。

雁木取り外し後の様子

雁木石材の記録作業

② 夕倉遺跡 第２次調査（福山市津之郷町）

調査期間 平成29年11月６日～12月22日

夕倉遺跡は福山市津之郷町字高垣に所在し，昨年度行った第１次調査では主に中世（鎌倉～室町時代）の遺構・遺物がみつかっています。

今年度行った第２次調査では，独立丘陵の西側斜面を対象に調査を行い，中世のものと考えられる掘立柱建物跡１棟，溝状遺構２条のほか，多数の柱穴がみつかりました。掘立柱建物跡の柱穴は直径10cmほどの小さいもので，簡易な建物であったと推測されます。また，溝からは亀山焼や備前焼など，鎌倉～室町時代の遺物が出土しています。夕倉遺跡は中世の村の西端部にあたり，遺跡の南東に広がる独立丘陵上に集落の中心があると考えられます。（渡邊昭人）

調査区遠景（南西から）

掘立柱建物跡

作業風景から

空中写真１　真上から

空中写真２　斜めから

写真撮影の今

発掘調査では，みつかった遺構の実測図を作成しますが，写真撮影も重要な作業です。

撮影は太陽光の影響を強く受けます。調査員は，掘る前・土層・遺物出土状況・完掘・作業風景など写真ならではのアングルや撮影時間を考えながら奮闘しています。しかし，調査区の面積が広いと全景写真も高さが必要となります。調査区全体の撮影はもちろん，遺跡がどのような場所に立地しているかも重要なポイントとなります。こうした時，昔は気球やセスナを利用して撮影を行い，アングルは撮影技師やカメラマンに伝えていました。

現在は，カメラを搭載したラジコンヘリコプターやドローンを利用しています。撮影用のカメラ以外にモニター用のカメラも搭載してあり，調査員はモニターを見ながら必要なアングルを決めることができます。フィルム以外にデジタルカメラでも撮影しているので，撮影後直ぐに確認ができるようになりました。

（山田繁樹）

実測風景

報告書作成中！

昨年度から亀居城関連遺跡（大竹市）の整理作業を行っています。亀居城関連遺跡は平成26・27年の２か年にわたって発掘調査を行い，遺跡からは数千点を超す遺物が出土しています。中には写真のような大物も…。大きいと実測するのも一苦労です。腰を低くしてみたり，立ち上がって上から見るなどして，隅々まで観察します。一つ書き終わる頃にはヘトヘトです。

他にも実測を待つ大物たちが待機しています。これらはコンテナ箱に入らないため，整理作業中は通路や壁際などに置かれています。そのため，その周りを通るときはぶつからないように注意して，そっと通っています。報告書を作り終わったら，専用の木枠を作るなどして保管しますが，それまでは気を使う日々となりそうです。

亀居城関連遺跡の発掘調査報告書は，来年度に完成する予定です。

（渡邊昭人）

待機中の大物遺物

平成29年度 ひろしまの遺跡を語る

瀬戸内から考える

邪馬台国とその時代

―魏の使いは瀬戸内海を通ったか―

平成30年１月27日　広島県民文化センター

日本史最大の謎とされる邪馬台国。そのありかや実態は様々に議論されてきていますが，いまだ謎のままです。では，その時代の瀬戸内，わけても広島がある西部瀬戸内にはどんな人々の営みがあったのか？

今年度の「ひろしまの遺跡を語る」は，～瀬戸内から考える邪馬台国とその時代～をテーマに愛媛大学名誉教授・下條信行先生を招いて開催しました。先生には講演で，この時代前後の西部瀬戸内の墳墓から出土する大型器台や高杯，長頸壺などから，墳墓に伴う共飲共食儀礼が地域で共有されていたこと，西部瀬戸内地域に共通する政治・文化・経済のつながりがあったことなどをわかりやすくお話しいただきました。

報告では，広島市の梨ヶ谷遺跡の墳墓と副葬鉄器，山県郡北広島町の壬生西谷遺跡の後漢鏡，福山市の御領遺跡の船絵画土器について話題提供し，下條先生を交えたフリートークで会場の質問に応えました。

（伊藤　実）

下條先生の講演

会場ロビーの関連資料展示

平和大通り青空ギャラリー2018

平成30年１月 21日（日）には西区役所主催の全国男子駅伝協賛イベント平和大通り青空ギャラリー 2018に参加しました。当室の参加は，今回で４年目となりました。当室のブースでは，昨年に引き続き和同開珎の鋳造体験を行いました。材料となる金属を鍋で溶かして鋳型に流し込み，冷え固まるのを待つとピカピカのお金が完成します。子供から大人までとても簡単にできるため，ご家族で参加してくださる方が多くありました。「いつ使われたお金？」など質問も飛び出しました。この鋳造体験をきっかけにして，歴史に興味をもってもらえたのではないかと思います。

（順田千織）

大人も夢中！

型から取り出すと歓声があがります

ひろしま考古学講座Ⅵ

―発掘から推理するⅢ―

速報

邪馬台国時代の考古学

「ひろしま考古学講座」は，“発掘から推理する”シリーズそのⅢとして，今年度は「邪馬台国時代の考古学」をテーマに好評開催中です。講座では，これまであまり注目されてこなかったこの時代の瀬戸内・広島を考える有効な素材として，県内外の発掘成果から推理される人々の暮らしぶりを多角的に紹介しています。これまでに開催した４回の講座内容について紹介します。

第１回（平成29年12月３日）

邪馬台国時代の鉄

―小丸遺跡（三原市）の発掘調査から―

北九州市立いのちのたび博物館　松井　和幸さん

『魏志倭人伝』には「鉄鏃」の記載しかない弥生時代の製鉄の可能性について，小丸遺跡の調査成果や九州阿蘇山麓のリモナイト製鉄などを素材に語っていただきました。

第１回講座

第２回（平成29年12月17日）

邪馬台国時代の土器

―元岡遺跡群（福岡市）の発掘調査から―

福岡市経済観光文化局埋蔵文化財課　常松　幹雄さん

この時代の対外交渉の窓口だった博多湾の元岡遺跡群の調査成果から，列島各地や半島産の土器の動きとともに，広島とも関わりの深い土器の実物も持参して語っていただきました。

第２回講座

第３回（平成30年１月13日）

邪馬台国時代の墳墓

―佐田谷・佐田峠遺跡（庄原市）の発掘調査から―

庄原市教育委員会生涯学習課　今西　隆行さん

この時代の特殊な墳墓・四隅突出型墳墓の調査成果から，中国山地の墳墓の様相について，語っていただきました。

第３回講座

第４回（平成30年２月12日）

邪馬台国時代の青銅器

―荒神谷・加茂岩倉遺跡（出雲市・雲南市）の発掘調査から―

島根県古代文化センター　松尾　充晶さん

全国的に例のない大量の青銅器が出土した出雲の二つの遺跡の調査成果から，弥生青銅器の謎について語っていただきました。

第４回講座

知られざるひろしまの遺跡探訪

広島発！ローカル（乗合）列車・バスで行く遺跡探訪ツアー　後編

第３回（平成29年10月21日）

第３回は広島県をちょっと飛び出して，お隣山口県岩国市へ。岩国市教育委員会の藤田慎一さんに講師をお願いし，三角州に築かれた中津居館跡と，岩国城を見学に行きました。まずは白崎八幡宮，そして中津居館跡へ。どちらも中世に岩国を治めていた弘中氏と関係が深い所です。

中津居館跡は発掘調査中で，みつかったばかりの遺構を見学しました。雨はどんどん強くなりましたが，皆さん熱心に話を聴いていました。発掘調査中の遺跡を見られたことは，とても貴重な体験となりました。

午後は錦帯橋へ移動し，吉川資料館と岩国城を見学！岩国城は毛利輝元の防長移封後，岩国に入った吉川広家が築城しましたが，一国一城令により完成からわずか７年で廃城となりました。藤田さんによる説明版には書かれていないお話を聴きながら，現在も山中に残る石垣や，復元された天守台などを見学しました。　（順田千織）

遺跡現地にて

復元された天守台を見上げる

資料館にて解説

調査中の遺跡を特別公開

第４回（平成29年11月18日）

第４回は安芸郡府中町へ。府中町はその名のとおり，安芸国府が置かれていたと考えられています。また，町内にある下岡田遺跡は，奈良～平安時代に整備された山陽道の駅家（うまや）である安芸駅と考えられています。

府中町教育委員会の沢元保夫さんに講師をお願いし，府中町の史跡を散策しました。まずは県重要文化財である多家神社の宝蔵を見学。広島城三の丸にあったもので，広島城にあった建物としては唯一現存するものです。その後，町内の史跡や文化財を見学し，府中町歴史民俗資料館では展示解説や国府について現在わかっていることなどをお話ししていただきました。質問も多く飛び出し，展示室が熱気に包まれました。

また，現在発掘中の下岡田遺跡の調査区を特別公開！町内では残念ながら直接国府に関連するものはみつかっていませんが，総社跡や国庁屋敷跡といった国府に関連する地名が多く残されており，今後の発見に期待です。　（順田千織）

考古学アラカルト 49

考古資料にみられる犬

福山市芦田町に所在する田上第２号古墳から出土した装飾付須恵器と呼ばれる須恵器には，犬が表現されていました。この犬は高さ４cmほどの大きさで，前脚部分が須恵器に接地しています。耳は後ろに倒れ，口を開けていて，今にも吠えて飛びかかりそうな様子です。犬の横には別の小像が貼りつけられていた痕跡があり，もしかしたらシカやイノシシなどの獲物が置かれていたのかもしれません。現代の柴犬や甲斐犬などは日本犬とよばれ，かつての犬の特徴を留めていると考えられおり，巻尾もその一つです。田上第２号古墳の犬も尻尾がくるりと丸まっています。

田上第２号古墳からみつかった装飾付須恵器
（広島県立歴史博物館提供）

平安時代の須恵器を焼いていた三原市久井町にある熊ヶ迫第２号窯跡では，窯の中から小さな犬の足跡がついた須恵器の杯蓋が出土しました。現代の柴犬（成犬）の足跡と比較すると，よく似ていますが浅くてかわいらしいですね。土器を乾燥させているときに子犬が踏みつけたものと考えられますが，跡を消そうとしたような痕跡はなく，焼けた製品を窯から出すときに，足跡に気が付いたのかもしれません。この土器は完形品ですが，窯に残されていることからわかるように，出荷されていません。製品として不合格だったのでしょう。子犬が飼われていたものかどうかはわかりませんが，工人にかなり叱られたのではないでしょうか。

犬の部分（拡大）

犬は狩猟に使われたほか，弥生時代以降，食糧とされることもありましたが，多産であることから近世には安産の象徴ともなりました。現在でも戌の日に安産祈願をするなど，その信仰が残されています。飼われたり，食べられたり，信仰されたりと犬との関わり方は様々ですが，それだけ身近な動物であったと言えるでしょう。

（順田千織）

現代の犬（柴犬）の足跡

熊ヶ迫第２号窯跡の犬の足跡がついた杯蓋

埋蔵文化財取扱い技術研修

県内市町の埋蔵文化財担当者を対象とし，研修会（県教育委員会委託事業）を実施しました。

平成29年７月５・６日は「発掘調査基礎課程」の講義，遺物の撮影と取扱い実習，12月７・８日は福山市夕倉遺跡で「発掘調査基礎課程」を行いました。発掘実習は時折，雪もちらつく寒い日となりましたが，発掘調査区の壁土層断面や遺物出土状況の図面作成の作業を行い，無事終了しました。

（山田繁樹）

遺物の取扱い（梱包）

発掘調査実習

お知らせ　平成29年度の発掘調査報告書を刊行しました。

ご希望の方は調査室へお問い合わせください。

	書　名	市町名	概　要	頒　価
埋文報告第78集	奥山製鉄遺跡	三次市	古代末～中世の製鉄遺跡。炉本体は検出されなかったが，検出した整地面と炉壁などから大型箱型炉による製鉄が行われていたと考えられる。また，精錬鍛冶炉の羽口と炉壁が出土し，製錬炉と精錬鍛冶炉が隣接して操業された可能性がある。	300（送料別）
埋文報告第79集	湯伝遺跡	福山市	低丘陵裾部に立地する弥生時代中期を中心とした遺跡。丘陵上に想定される集落跡との境界線もしくは防御施設の役割をもつと考えられる柵状遺構や，溝状遺構を検出した。また，土師質土器が多数出土し，周辺に中世の集落等があると想定される。	400（送料別）
活動報告第７集	平成28年度　ひろしまの遺跡を語る 幕長戦争と西国街道 ―廿日市町屋跡・亀居城関連遺跡の発掘調査と史実―記録集	―	長州藩と幕府が争った「幕長戦争」について，三宅紹宣さん・石田雅春さんによる講演と，廿日市市や大竹市の発掘調査でみつかった戦いの痕跡についての報告ならびにシンポジウムの全記録。	500（送料別）
―	年報14	―	平成28年度における当調査室の実施した事業概要のまとめ。	－

あとがき

冷たい海風が吹き付ける中，鞆では雁木の調査が進んでいます。港町として整備された鞆の歴史の一部が少しずつ明らかになってきています。調査は来年度も行われる予定です。整理作業も来年度への持越しがあり，雪解けとともに気持ちまで緩まないよう業務に取り組んでいきたいと思います。

年明けより開催した行事には多くの参加者がありました。来訪くださった方々に感謝申し上げます。

（Ｃ・Ｊ）

（公財）広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報
ひろしまの遺跡　第119号

発行日　平成30年3月23日
編　集　（公財）広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室
〒733-0036　広島市西区観音新町４-８-９
TEL(082)295-5751　FAX(082)291-3951
ホームページ　http://www.harc.or.jp/
E-mail　maibun@harc.or.jp
発　行　（公財）広島県教育事業団
印　刷　株式会社ニシキプリント